



平成 22 年 5 月 17 日

各 位

会社名 カラカミ観光株式会社
代表者名 代表取締役社長 片山 達哉
(JASDAQ・コード9794)
問合せ先 取締役執行役員管理本部長
西村 孝孔
電話 011-598-3225

平成 22 年 3 月期通期（連結・個別）業績予想の修正
及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 22 年 3 月期通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績予想について、連結は平成 22 年 2 月 10 日及び個別は平成 21 年 5 月 20 日に公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	18,200	400	0	△400	円 銭 △46 20
今回修正予想 (B)	18,507	407	△12	△1,804	△210 00
増減額 (B-A)	307	7	△12	△1,404	—
増減率 (%)	1.7	1.9	—	—	—
(ご参考) 前年実績	21,978	510	△276	△4,741	△547 56

2. 通期個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	19,700	300	150	80	円 銭 9 24
今回修正予想 (B)	18,221	△27	△365	△2,123	△245 23
増減額 (B-A)	△1,479	△327	△515	△2,203	—
増減率 (%)	△7.5	—	—	—	—
(ご参考) 前年実績	21,676	108	△531	△4,973	△574 35

3. 業績修正の理由について

長引く景気の低迷による消費不振、新型インフルエンザ等、観光業界を取り巻く環境は極めて厳しく、収益力を回復させ、安定した経営を取り戻すためには、現状の延長線上の経営から脱皮する必要が喫緊の課題であり、平成 21 年 11 月 10 日に発表しました 3 ヶ年の「経営改善計画～New Karakami Project～」に基づき、(1)収益力強化(2)財務体質強化(3)組織力強化を推進し、コスト削減等の効果はすでに現れているものの、収益力の回復等の本格的な効果は翌連結会計年度に現れる見込みとなっております。

しかしながら、経営改善は進んでいるものの厳しい事業環境下にあることから、通期の連結売上高、同営業利益、同経常利益、及び同当期純利益について前回予想値（平成 22 年 2 月 10 日）を次のとおり修正いたします。売上高は概ね予想どおり 182 億円に対し 185 億 7 百万円の見込みとなり 3 億 7 百万円増加、低価格競争の影響により営業利益は 4 億円に対し 4 億 7 百万円の見込みとなり 7 百万円増加、経常利益は 0 百万円に対し 12 百万円の損失見込みとなり 12 百万円の減少、当期純利益は下記に記載する特別損失の計上により 14 億 4 百万円減少の 18 億 4 百万円となります。

個別業績予想の修正理由につきましては、価格競争の激化により売上高は 14 億 79 百万円減少の 182 億 21 百万円となり、営業利益は売上高の減少により 3 億 27 百万円減少の 27 百万円の損失となり、経常利益は支払利息の増加等により 5 億 15 百万円減少の 3 億 65 百万円の損失、当期純利益については下記の特別損失の計上により 22 億 3 百万円減少の 21 億 23 百万円となります。

4. 特別損失の計上について（連結・個別）

国内及び道内の長引く景気低迷の影響による消費の冷え込み、客数の減少、低価格競争の激化など当社グループを取り巻く経営環境は予想を大きく下回り、将来の回収可能性を検討した結果、定山溪地区の観光ホテルにおいて減損損失を認識するに至りました。平成 22 年 3 月期にこの資産について 15 億 56 百万円の特別損失を計上いたします。

※ご留意事項

上記の業績予想につきましては、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提のもとづいたものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上